

「もの忘れ(脳)ドック」で認知症みつける

最新MRI(1.5テスラ)検査でアルツハイマー型認知症の早期発見を!



田中敬剛医師 日本老年精神医学会指導医
白井病院は、日本老年精神医学会専門医研修施設としての指定を受けており、田中医師の他、奥村医師(常勤)も同一資格を有され泉州地域での先駆的病院として、27年にわたり認知症の治療に専念。認知症患者が受け入れられやすい社会作りを目指し、地域住民への啓発も行う。

白井病院

では珍しい取り組みです。認知症には、薬やリハビリで治る種類があります。たとえ治らないまでも、早期発見できれば症状を軽くしたり、進行を遅らせるなど、治療の選択肢も増えています。

単なる物忘れか認知症なのか、わかる検査

今年65歳以上の人口が3190万人を超え、4人に1人が65歳以上の高齢者となり自身の健康問題が気になる、特に認知症が気にかかる人々が多くなった事も事実です。そこで今回泉州地域で認知症の治療や予防、相談で実績がある白井病院(泉南市)が、脳に病気が潜んでいるかを調べる脳ドックに、物忘れの有無を調べる項目などを合わせた「もの忘れドック」で、認知症を早くみつける取り組みを今月から始めました。泉州地域

増えたり、夢遊病的な行動があると言われたことがある(↓)レビー小体病が疑わしい(など、簡単な質問に答えるだけで、みつけることができます)もの忘れチェックリスト「医学的に確立された記憶力テストなどで判別できるところ。」

「認知症であるかないか、年のせいであるかないかは、私たち医師が判断します。高齢者については、少しでも自覚症状があり、心配なことがあれば通常診療でも対応しています。最近では、物忘れが多いけど年のせいかな...、って言えるくらいで進行を遅く、人間らしく天寿がまっとうできるようにしたいですから。」



脳の断面画像(左)とMRI(右)



(VS-RAD)記憶をつかさどる脳の部分に焦点をあてて診断する。

「最近記憶力や判断力が低下してきたのでは?」とお悩み・心配される年配の人々が増えていると聞きますが、どのようにすれば良いのでしょうか?」

若い頃に発症していても気付かないことがあります。要注意は40代後半〜50代後半の方々。

「以前、ほかの病と診断されたために治療が遅れ、認知症が進んでから本院を受診され、自分が誰かもわからず寝たきりになってしまった30代の方がおられました。こういった悲しい現実を無くしていくのが、私たちの仕事です」と田中医師。

「もの忘れドック」では、MRI(画像撮影装置)で調べた脳の画像データを、最新の専門ソフト「VS-RAD」(Voxel-based SRA Diagnostic)で解析・測定し、認知症の種類の数以上をしめるアルツハイマー型をみつけ、ほかの種類については、睡眠時に寝言が

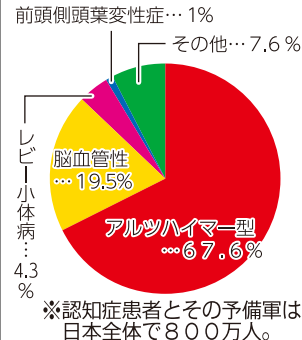
そこで、「もの忘れドック」の取り組みについて、田中敬剛医師にわかりやすく紹介してもらいました。

認知症は、いろんな原因で脳の細胞が死んでしまい、その働きが悪くなることで、記憶力が失われるなどして、日常生活や社会生活が送れなくなる病気。

その種類は、100種近くもあるといわれ、高齢者の発症はもとより、若い頃にも進行するタイプでは、

「もの忘れドック」要予約

■料金…税込2万5200円(基本料金。健康に関する追加検査(有料)も実施)
※40歳以上の国保加入者は、各市町村の「脳ドック助成金制度」が利用できます。ご相談ください。
[予約・問] Tel.072-482-2011(代)
白井病院医療福祉相談課(月～土曜日9時～17時、祝祭日、年末年始12/31～1/4を除く)
www.shiraihp.or.jp



認知症の種類は約100種。大きく分けると4つ(グラフ)とそれ以外の認知症です。

1.5〜2時間 検査にかかる時間は、わずか、

単なる物忘れと認知症の違い(チェック項目)

- 「たまに」ではなく、「しょっちゅう」同じことを言ったり聞いたりする
- 「ときどき」ではなく「いつも」探し物をしてる
- 人の名前が、ヒントを言っても思い出せないことがある
- 「食べた物を思い出せない」のではなく、「食べたこと自体を覚えていない」